

今年のカレンダーのテーマは、昨年につき「宗祖親鸞聖人に会う」です。

2023年には、親鸞聖人ご誕生850年を迎えることから、あらためて親鸞聖人に会う機縁になることを願い、親鸞聖人の教えにふれた先達の方々のお言葉の中から選定されました。

表紙 正親含英（おおぎ がんえい）師

念仏はまことなき人生の  
まことを見せしむる光

実（まこと）なき私を中心に、世界を、私を見ていくしかない身であったものが、ご本願に出遇い如来さまの智慧の念仏を通して、世界を、私を見ていく姿勢に転じられる。

1月 稲垣瑞劔（いながき ずいけん）師

きょうもまた光り輝くみ仏の  
お顔おがみて うれしなつかし

阿弥陀さまの光は常にわが身を照らしてくれる。この句の前にお慈悲じゃなあ、親様じゃなあ、という言葉があり、うれしなつかし、につながる。

2月 榎本栄一（えのもと えいいち）師

ふみはずしましたが 気がつけば  
ここも 仏の道でございました

商売がうまくいかないこともあったけど、この日常の営みにも私を捨てぬとおっしゃった如来さまがいらっしゃった。このわが歩みは仏の道であった。

3月 原口針水（はらぐち しんすい）師

われ称え われ聞くなれど  
南無阿弥陀仏 つれてゆくぞの  
親のよびこえ

先手は弥陀。私があればこれ考えるそのずっと前から、阿弥陀さまの方が私を願ってくださった。そのことをいただくのがお念仏の教え。

4月 平野修（ひらの おさむ）師

如来の本願は 風のように身に添い  
地下水の如くに 流れ続ける

風が吹けば、その場にいる人の一人ひとりが風を感じる。本願はすべての人にはたらきかけてるが、本願のはたらきを受け取るのは一人ひとり。また、本願には、地下水の流れが四方八方に広がるように、どこまでもはたらき続ける。

5月 豊島学由（とよしま がくゆう）師

失ったものを 数える人あり  
与えられたものに 感謝する人あり

現在に満足していなければ、結局は愚痴になる。このような人は今が満足できないので、与えられたものに感謝することはできない。恩恵のなかに生かされていると気づくことは喜びにつながっていく。

6月 松扉哲雄（しょうび てつお）師  
“あたりまえだと” と言うて  
まだ不足を言うて 生きている

自分中心の煩惱のままの行いであれば、正しくもなくよろこびもない。「あらゆるものに支えられて生かされて生きる」ことに目覚めていくことが大切。

7月 大峯顯（おおみね あきら）師  
この心も身も全部  
如来からの いただきもの

私が存在しているから私の心身も存在しているのではなく、こころも身体も、如来のはたらきのなかでたまり存在するのち。その私の人生は生死を超えたいのちをいただいた人生でもある。

8月 宮城顛（みやぎ しずか）師  
我が身を深く 悲しむ心に  
仏法のことばが響く

仏法からいかに自分が遠くあるかと、我が身を深く悲しむ心に仏法のことばが響くのであって、自分は何でも知っていると思いがっている人はより仏法から遠くなる。

9月 波北彰真（はぎた しょうしん）師  
手を合わせ 仏さまを拝むとき  
わたしのツノを 知らされる

三毒の煩惱をツノの生えた鬼のすがたに例え、「他人のツノはよく見えるが、自分のツノには気がつかない」私のすがたに気づかされる。浅原才一。

10月 伊東慧明（いとう えみょう）師  
悲しみがあるがゆえに よろこびあり  
煩惱あるがゆえに 菩提あり

私たちは幸せを求めながら生きているが、願ってもいない悲しみ、寂しさ、苦しみに耐え続けて生きているのが現実。深い煩惱をかかえている私だからこそ、そのままの姿で救うとはたらき続けてくださる阿弥陀如来のご本願。

11月 雪山隆弘（ゆきやま たかひろ）師  
たとえ一人になろうとも  
仏はあなたと共にある

阿弥陀さまは、この私をすくうことをめあてに、「必ずわたしの世界（浄土）に生まれさせたい、もしそれができないならば、わたしは決してさとりをひらかない」と誓われた。

12月 米沢英雄（よねざわ ひでお）師  
いただきますと 合掌するのは  
感動の表現である

仏性が目覚めると今までエゴを先に立てて生きてきて、エゴを満足させるために奔走してきたが、自分が息せしめられているだけですばらしいことだと、他力のはたらきに感動する。実は日常生活においてもこの感動するところに人間がある。

（参考文献）「月々のことば」本願寺出版社